

もくぞう あ み だ によらいりゅうぞう
72. 木造阿弥陀如来立像

■ 指定日

昭和42年4月20日

■ 種別

有形文化財 彫刻

■ 年代

鎌倉時代

■ 所在地

朝来市山東町野間

■ 所有者

国清寺



■ 内容

寄木造漆箔、鎌倉期の特色である玉眼をはめ、優美温雅のなかに端嚴さを感じられる相好で、軀幹各部の均衡もよく、上半部は量的表現が顕著である。衣紋の流線や文様も柔らかいが、前面下方は形式化した傾向がある。

写実的な表現を基調とした技法に、鎌倉後期の特色が出ており、快慶系統の仏師の作ともいわれる。

光背は近世の作である。右手中指と小指を損じているが、これにまつわる物語として巨盗弥曾の物語が伝わっている。